

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2025.08.No336

8月号

目次

「挑戦と成長の軌跡」

網走市役所新庁舎建設事業	1
全道青年建築士の集い	2
技術ノート (CPD自習型認定研修)	4
女性の窓	6
[No.118 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

「挑戦と成長の軌跡」網走市役所新庁舎建設事業



立花 智亜喜 (網走支部)

令和6年11月、網走市役所新庁舎、完成。



完成した網走市役所新庁舎

網走市役所新庁舎建設事業は、関わった者たちにとって記憶に残る一大プロジェクトとなりました。この事業について、工事関係者の生の声を聞くため、建築部門代表の吉島 和也氏 (株式会社丸田組)、電気部門代表の久保 徹氏 (山本電子工業株式会社)、機械部門代表の江田 任氏 (株式会社そうけん)、私の計4名で対談を行いました。対談は「雑談」形式で進み、工事中のエピソードや困難、そしてそれを乗り越えた経験が大いに語られました。

吉島氏のリーダーシップ

建築工事の現場代理人を担った吉島氏は、「最も困難な役割を全うした」と久保氏と江田氏から称賛されています。数多くの関係者との連携や、複雑な設計への柔軟な対応が幾度も求められましたが、吉島氏の建設的な提案と設計者との密な対話により克服され、一体感のある現場づくりに尽力されました。

久保氏と江田氏の貢献

電気工事の現場代理人を担った久保氏は、通信工事の経験が主であったため「大規模な電気工事は新たな挑戦であった」と語ります。また、遠方からの

職人の宿泊や駐車スペース確保の課題に対しては、提携宿泊施設の利用、民宿や住宅の借り上げなど多様な手段を講じ、円滑に作業ができる環境の維持に尽力されました。

機械設備の現場代理人を担った江田氏は、空調・換気・衛生で工区が分かれる特殊な発注形式の中で、各工区と連携し正確な図面確認と初期段階での徹底した情報共有の重要性を強調しました。また、当初設計の施工上の課題に対して積極的に提案 (換気設備のCO₂センサーの設置方法の変更提案など) をし、機能性と経済性の両立を図りました。

創意工夫とチームワーク

新庁舎建設は多岐にわたる困難に直面しました。事業においては「設計者の意図と現場での実現可能性をすり合わせるため



左から、江田氏、久保氏、吉島氏の継続的な対話と意思決定が重要で、設計・施工・監理の各専門性を尊重しつつ、最適な解決策を導き出すための協議が必要不可欠だった。関係者との意思疎通を大切にし、良いと思えるものを採用することで効率的に現場を進められた。すべての人に感謝したい」と諸氏は語ります。

市民に開かれた新庁舎の未来

こうして完成した新庁舎は、あらゆる努力が実を結び、網走市民に大いに活用されています。この事業は、単なる建造物を超え、関わった全ての人々の「挑戦と成長の軌跡」であり、網走の未来を築く礎となるでしょう。

青年建築士の集い in かみふ

青年委員会 橋場 怜 央 (富良野支部)



1926年（大正15年）5月24日、2077mの活火山である十勝岳は大噴火を起こした。まだ完全に融けていない山頂の雪は追い打ちをかけるように雪崩となり、岩石と樹木を巻き込みながら（融雪型泥流）1分間に2kmものスピードで下流へ進んだ。そして25km先の上富良野町を一瞬で飲み込み甚大な被害をもたらした。今から99年前の出来事である。

その後も1962年（昭和37年）に再噴火した後、1988年（昭和63年）にも噴火した。約30年毎に起こる噴火に近隣町民は脅威に怯えながらも、都度復興のために皆の団結力で乗り切り、後に国としても様々な対策をとってきた。私も、1988年の時には隣町に住んでいながらも遠くに見える山から、黒く時折赤く光る煙を目の当たりにし恐怖を感じた。

来年は大噴火から丁度100年目にあたり、この悲惨な出来事をどう乗り切ってきたのかを後世に伝える小説「泥流地帯」（三浦綾子氏）の映画化も決定している。

昨今の日本国全体での防災意識の高まりを受け、北海道建築士会青年委員会としても様々な意見交換や諸活動がなされている中、本年度の青年建築士の集いは上富良野で開催する予定が昨年より検討されていたことから、今年のテーマを「建築士の知見と青年の若さで、地域防災力の向上を考えよう」とし、災害時の上富良野の様子を振り返りながら防災施設の見学や災害図上訓練（DIG）を通して意識向上を図った。

この集いの開催にあたり上富良野支部の黄田支部長はじめとする支部の皆様、災害対応委員会の土田委員長、吉田委員長はじめとする青年委員会の皆様方に多大なるご協力を頂き無事開催できたこと、また先に述べた十勝岳は国有林に位置するため様々な許可手続きが必要であり入林許可や実施にあたり上川総合振興局、上川南部森林管理署、上富良野町商工会議所、ふらのバスさん、ふらのタクシーさん等の関係各位にもご協力賜り御礼申し上げます。

また、建築士会全道各地のメンバーに加え静岡県からも渡邊様、日本建築士会連合から吉田様にもご来場頂き総勢60名で開催できたこと重ねて御礼申し上げます。

今回の青年建築士の集いでは、みんなでバスに乗車し、過去の十勝岳噴火による泥流災害がどのようなものだったのかを車中で上富良野支部さんの解説と歴史資料で学びながらのスタート。被災した当時の写真と、現在の実際の姿を比べた。

途中「十勝岳爆発避難記念碑」という場所に立ち寄ったが、十勝岳から約25km離れているにも関わらず70tもの巨大石がそこまで転がってきたとのこと。「現実はこの石がここまで、、、」と、想像するだけで自然の脅威を感じることができた。

他にも数か所の地を車内から見学し、いよいよ目的地へ向かうために普段は入れない国有林へ。

ここからは、普通にヒグマなどが生息しているエリアのため、道中では車のクラクションを担当の山川さんが鳴らし、さらには登山が得意なアウトドア派の亀田さんは熊避けのマイ鈴を、佐々木さんには爆竹入りのミニ鉄砲を用意して頂き、様々な警戒音で武装して突入した。

そして、国有林を10分程度進んだ後、バス見学の最終目的地である「2号透過型ダム」に到着した。

大きなジャングルジムのようなこのダムは、大きな石や流れてくる木々をそこで止めて下流への被害を減らすためのもの。下の写真がそのダム。なんと長さは脅威の917mと、とても大きな施設。



富良野川2号透過型ダム近景

先日は、TV番組にも登場するなど、とても巨大な砂防ダムとしての存在感には驚く。



富良野川2号透過型ダムで記念撮影

このダムがあるおかげで、十勝岳が万が一爆発し過去に起こった融雪型泥流が発生しても、大きな石や木々たちをある程度ここで食い止めることができる。昔は作ることができなかった大きな構造物だが現在の技術の進歩により完成したのだ。きっと我ら建築士の先輩諸兄も携わっているはずである。

ヒグマ出没のこともあるので適度な時間で見学した後、一同帰路へ。道中は再び、上富良野の街並みや地形見学をバスの車窓から。そして約3時間の見学を終えた。

少しの休憩をはさんだ後、上富良野町総合センター「かみん」にて、災害図上訓練(DIG)を行った。

先にも述べたが今回のテーマは「建築士の知見と青年の若さで、地域防災力の向上を考えよう」なので、先ほどの十勝岳噴火の関連箇所や防災施設の見学と、バスによる上富良野町の地形見学なども踏まえた上で、上富良野町でまた泥流被害が起った場合の避難計画や近隣施設での緊急生活についてシミュレーション・議論、意見交換。



DIGの様子

多種多様な見解が出てきて「こんな考え方もあるんだな」と非常に勉強になる有意義な時間であった。

参加者の興味を引くように練られたイベント要素満点のDIGの内容にも、また参加者が実際に様々な場所を見学したことなど、複合的要素により終始会場は熱気に包まれていた。

夜はみんなで野外バーベキュー。屋根付きテントの会場のためどんな天候でもバーベキューが楽しめる場所だ。



みんなでバーベキューを楽しむ

上富良野町の特産品である「かみふらのポーク(ぶたさがり)」に舌鼓を打った。

美味しいお酒と楽しい話を肴に懇親を深めあった。2次会、3次会、、、と上富良野町の夜は続いた。



懇親会の様子

建築士会のイベントにはとても意味があると思う。様々な人々の交流と議論、情報共有に建築士目線の専門性がエッセンスとなり、とても面白い。自己の学びはもちろんのこと、広義だとこの行動が実は地域発展の一助になっている。

だから、この建築士会の魅力をもっともっと広げていきたい。

生意気にもそんなことを思う北海道建築士会所属の窓屋さんでした。

木造建築物の壁耐力等に関する 評価提案ツールの開発

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部
建築性能試験センター 研究主任 長瀬 拓也

1. はじめに

2025年度から、延床面積300m²以上の木造建築物に対して新たに許容応力度計算が義務化されました(表1に赤字で変更点を示します)。これにより、これまで仕様規定に基づいて設計してきた技術者にとっては、設計の難易度が高くなり、時間やコストの負担が増すことが想定されます。

一方で、許容応力度計算に精通した設計者が増えることで、より合理的で自由度の高い構造計画の実現が期待されます。

北海道立総合研究機構では、木造の許容応力度計算をより合理的に行う方法として、面材張り耐力要素の詳細計算法に着目し、それを簡易に活用できるWEBツール「壁ナビ」「屋根ナビ」等を開発しました。

本報では、まず北海道内における対象建築物の傾向を紹介し、開発したツールの概要について報告します。

表1 許容応力度計算対象の規模

旧基準

規模高さ		高さ13m以下※ ※軒高9m以下
1階建	500m ² 以下	仕様規定
	500m ² 超	許容応力度計算
2階建	500m ² 以下	仕様規定
	500m ² 超	許容応力度計算
3階建		許容応力度計算

新基準

規模高さ		高さ 16m 以下
1階建	300m² 以下	仕様規定
	300m² 超	許容応力度計算
2階建	300m² 以下	仕様規定
	300m² 超	許容応力度計算
3階建		許容応力度計算

2. 北海道内の対象建物について

構造計算が新たに義務化される延床面積300~500m²の木造建築物について、北海道庁が所管する物件データを基に調査を行いました。その結果、以下の用途が多数を占めていることが明らかになりました。

- ・共同住宅・寄宿舍・下宿
- ・住宅・長屋
- ・事務所

その他に該当する建物の用途としては、児童福祉施設、ホテル・旅館・簡易宿泊所等が確認されまし

た。該当する延べ床面積の共同住宅や長屋としては、図2に示すような1棟8軒や1棟6軒の計画が想定されます。また、事務所や児童福祉施設としては、図3に示すように、前面に開口部を大きくあけた計画が想定されます。

これらの用途の建築物は、ロングスパンの梁や支配面積の大きな柱は少ないため、梁や柱は問題になりにくいですが、一方で、共同住宅の平側や開口の大きな建物の前面に耐力壁を設置できる場所は限られます。そのため、建物に生じるねじれや、耐力壁芯毎の負担せん断力の偏りが過大にならないよう、設置する場所毎に適切な強度・剛性の耐力壁を選定してバランスをとることが重要になります。また、耐力壁にせん断力を伝達する水平構面の選定もあわせて重要です。

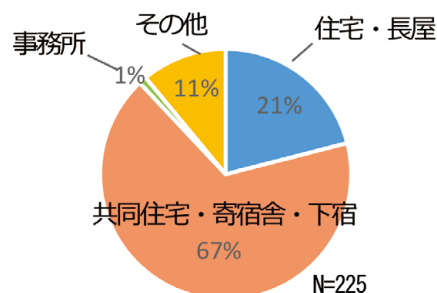


図1 対象となる木造建築の用途 (R4, 5道庁所管分)



図2 延床300m²~500m²の共同住宅のイメージ



図3 全面開口が大きな建物のイメージ

3. 面材張り耐力要素のせん断耐力の分析

面材張り耐力要素の詳細計算法は、標準的な仕様に該当しない耐力壁や、屋根・床などの水平構面の許容せん断耐力を求める計算方法で、公益財団法人日本住宅・木造技術センターが発行している「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017年版）」にて紹介されています。

この計算方法では、釘の間隔や釘の種類、面材の板厚等の多様な諸元を指定できるため、必要とする強度・剛性の耐力壁や水平構面を、より自由に選定することが出来ます。設計の自由度が高い一方で、各諸元が許容せん断耐力にどのように影響するか予測が難しいため、直感的な判断が難しいのが実情です。ここでは、パラメータスタディを行い、仕様の内、釘間隔、釘種、板厚毎に許容せん断耐力の結果を整理して図4、5に示します。図における例は以下の3種類です。

- ・青丸：詳細計算法により計算された強度
- ・赤丸：建築基準法令に示されている強度
- ・緑三角：大臣認定および品確法に示されている強度

なお、建築基準法令に同様の仕様がある場合には、法令の強度を尊重し、詳細計算法の評価結果を補正して表示しています。

図4は耐力壁についての結果で、以下の傾向が確認されました。

- ・釘を打つ間隔が細かい仕様の強度が強くなる。
- ・釘が長い仕様の強度が強くなる。
- ・釘の種類は同じ長さであればN釘よりもCN釘の仕様の方が強度が強くなる。
- ・面材の板厚が厚い仕様の強度が強くなるとは限らず、弱くなるケースも見られた。

図5は垂木屋根についての結果で、釘間隔、釘種、板厚毎に分類するだけでは、傾向が把握しづらいことがわかります。これは、上記以外の諸元（垂木寸法、端部の接合方法、転び止めの有無等）の影響が大きいからです。また、詳細計算法の適用範囲から外れてしまうことも多く、目標とする強度の組み合わせを見つけるのが困難です。

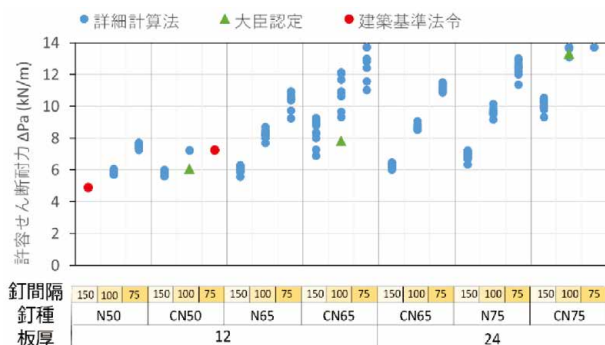


図4 耐力壁の面材仕様と部材強度の関係性

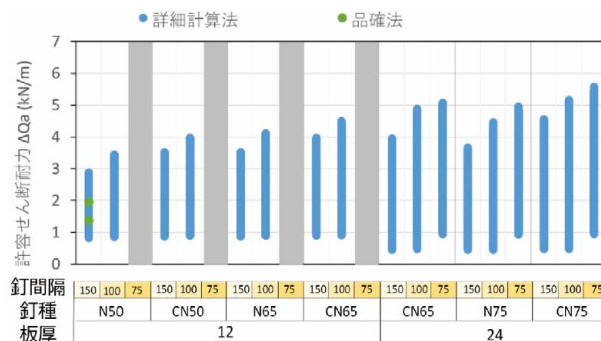


図5 垂木屋根の面材仕様と部材強度の関係性

4. 設計支援ツールの開発

こうした複雑な設計判断を支援するため、WEBベースの設計支援ツールを開発しました。設計者が目標とする設計せん断耐力を入力すると、それを満たすことができる仕様の組み合わせを自動で提案します（図6参照）。また、設計者がすでに決定済みの条件（例：釘の種類や板厚）がある場合でも、それ以外の要素を組み合わせで適切な解を提示することが可能です。これにより、設計検討に要する時間を短縮するとともに、複数の候補を比較しやすくするため、より施工合理性の高い組み合わせを選択しやすくなることが期待できます。

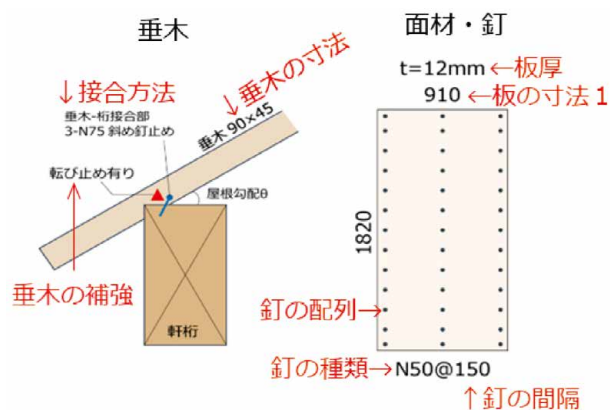


図6 提案される仕様の組み合わせの例

5. まとめ

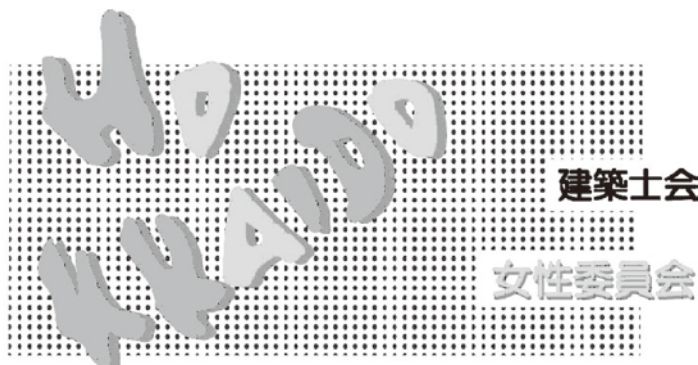
本稿では、北海道内における中小規模木造建築物に対する許容応力度計算の義務化を背景に、面材張り耐力要素の設計合理化に向けた支援ツールの開発内容を紹介しました。今後、ツールを活用した合理的な設計の方法等の普及に向けた取組みを行っていきたいと思います。

参考文献

- 1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計：日本住宅・木材技術センター，2017

自習型認定研修の設問は、P8に記載しています

No. 118



女性建築士の集いに参加して

児玉 恵美 (札幌支部)

北海道女性建築士の集い

2025年6月28日(土)

参加者(会 員) 28名
(会員外) 2名

上野ファーム散策
当麻町役場庁舎
公民館「まとまーる」
郷土資料館「ここから」見学

今年の集いは、以前まちづくり委員会主催の、村椿哲朗町長の解説付きで開催された当麻町役場庁舎見学会がとても高評価だったと聞き、女性委員会でも解説付きで見学したいと思い計画しました。当麻町役場庁舎は当麻町の木を構造材に100%使い地産地消を図り、様々な特徴を持った木造建築物で北海道赤レンガ建築賞等受賞されている建物です。念願が叶い見学することができて嬉しかったです。

当麻町役場 建設水道課 池崎建築係長の協力を得まして村椿町長に快く承諾いただき開催に至りました。お二人には大変感謝申し上げます。ありがとうございます。とても楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。

日程は、全道から集まっていた女性建築士の皆さんに、毎年旭川市で開催されているデザインウィークも楽しんでもらおうとデザインウィーク期間中にしました。当日は暑かったですが初夏の旭川は楽しんでいただけただしょうか。

女性建築士の集いは、男性社会の建設業界の中で数少ない女性建築士の交流会を年1回楽しく集まりましょうと約35年位前から始まりました。

集いの参加者がいつも同じメンバーになってしまっていますが、毎年委員が色々な見学会等を計画していますので、参加されたことのない女性建築士の皆様、来年はぜひ参加してくださいね。もちろん男性建築士も。

(旭川支部 中田富知子)



上野ファームで集合写真



当麻町役場庁舎構造材味わし



公民館で村椿町長と一緒に集合写真

晴天に恵まれた6月28日、旭川支部企画の『集い』に参加させて頂きました。

最初に訪れたのは、クレマチスやバラ等初夏の花が咲く《上野ファーム》初めてお話す方も自然に打ち解けられる雰囲気の中、和やかに始まりました。昼食は当麻町の町産木材が活用された食堂《和のみ》にて牡蠣フライの松花堂弁当とお団子を楽しみました。午後からは《当麻町役場》へ。

出迎えてくださった池崎係長の首から掛けられた名刺に描かれていたのはご当地キャラの『でんすけさん』…休日の庁舎にお邪魔する少し緊張する様な気持ちがホッと和みました。庁舎に入ると木の香りがして、カラマツの柱が2間モジュールで立つ大空間の執務室、7種の木の表情が際立つ町長室では村椿町長が迎えて下さいました。

そしてここから、村椿町長の刺激的で頭がフル回転する案内が始まりました。和みからの昂揚です！町長室をはじめ執務室・議場・公民館・資料館、様々なエピソードと町の取組みを交えた解説。庁舎建築で目指した事・来庁者が手続きの際に各部署をまわる必要が無い様にする工夫と、その為に全部署がワンフロアーで仕事をする事・それによって得られた職員同士のコミュニケーションの方法と無駄を省いたスピード感。建築空間と共に意識も変わり、議会も町民との関係が変化する中で、積極的にGXを進めるようにも…。

建築空間による仕事の変化と、良い動きに繋がる影響の大きさという、私達にとっては大変励みになるお話も伝えていただきました。

年に1度集う事で出会いと交流があり、個人では経験出来ない事やお話を伺える機会がある。それ故に集いは永く続いてきたのだと思います。来年は是非ご一緒に！

留萌支部

支部近況報告・『6年ぶり』の

副支部長

大平 健二



留萌支部の大平です。皆様覚えているでしょうか2020年にコロナウイルスが発症した日からもう5年が経過致しました。このパンデミックにより各種事業・様々なイベントが延期又、中止という状況が続いたことが今でも思い出されるところでございます。話はそれでしたが、私は青年部に所属しております。最近ではブロック協議会にも参加できていない状況で、各支部の仲間と会う時間もなかなか作れず大変残念な思いでいます。

さて、令和7年度留萌支部の近況と活動予定を報告致します。留萌支部は、1市、5町（留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、遠別町）で構成されております。現在支部会員40名、特別会員として留萌高等学校電気・建設科1校を加えて活動を行っております。平成26年支部会員数を見てみると67名いたのが、今現在では27名も

減少しておりました。留萌市の人口も平成26年は2万3千人程度いたのが、令和7年現在においては1万8000人を割ってしまいました。今後も人口の減少と共に会員の減少も免れないのかと考えてしまいがちです。

当支部では1月の総会にて昨年度の事業報告・令和7年度の事業計画について話し合いを行いました。例年行っている留萌高等学校（電気・建築科）卒業設計表彰、そして『建築士の日』において多くの市民の皆様に参加して頂いていたチャリティービアパーティーを7月1日建築士の日に開催することが決まりました。この活動は令和元年で活動が止まっている状況でした。『6年ぶり』に数少ない市民との交流の場を設けることができ、支部におきましても非常に喜ばしいことと考えております。

『6年ぶり』の開催のため以前のように沢山の市民の方に来ていただけるかどうか不安な気持ちもありながら準備をしてきたところではありますが、今後この活動は継続的に

行っていきたいと考えております。

又、先ほどお話した人口減少に伴い会員数が減少していく中、少人数で行える活動を考えていかなければなりません。留萌支部の活動が少しずつでも前進していくように模索していきたいと思っています。とご報告させていただきます。

各支部におかれましても同じ悩みを抱えている方もたくさんいらっしゃるかと存じますが、『少人数でもこんなこともできる！』など何か情報提供・共有ができれば幸いです。

全道各支部会員の皆様が健康に過ごされ支部活動にご尽力されますことを申し上げ留萌支部の近況報告とさせていただきます。



6年ぶりのビアパーティーの様子

斜里支部

全国大会 in 鹿児島

支部長

原 健治



私が建築士会に入会してから30数年、支部長になってから約10年、会員数15~6名の弱小斜里支部が全国大会という一大イベントに昨年参加しました。過去に道内で開催された帯広・函館での全国大会には参加しましたが、今回は初の海外（北海道外）とあり半年前から計画を練り（ほぼ青年部長任せ）いざ出陣！事前の天気予報では期間中は雨予報。晴れることを祈りつつ前日女満別空港を出発。飛行機を乗り継ぎ無事に鹿児島空港に到着。予報通りの雨の中コンビニにて傘を調達しレンタカーにて市内観光をし、式典会場を事前視察。そうこうしているうちに雨も止み、夕食を済ませ中標津支部の皆様と合流し、少しだけ鹿児島の夜を楽しみ就寝。

大会当日は天候も回復し大会式

典に参加。その後行われた大交流会では北海道支部の皆様と懇親を深めながら鹿児島焼酎をたらふく堪能し、交流会のイベントの抽選会では、約50本位の色々焼酎が景品として準備される中、我が斜里支部はなんと2本もGet!!（強運なのか意地汚いのか？）楽しい時を過ごし2日目の夜は早めに就寝。

翌日は地域交流見学会に参加。せっかくの機会なので一番遠方の「奄美大島」伝統・文化・世界自然遺産をめぐる旅に参加。全国から24名の参加者との事。意気揚々と奄美空港に降り立つと雨予報はどこへ？というほどの快晴。10月の終わりだということに気温30℃超え。（斜里ではすでに初雪済み）

見学先の奄美パークでは一番遠方から来た支部との事で、斜里支部青年部長が鹿児島建設新聞の取材を受け（後日掲載内容を送って下さいました。）大島紬の見学や奄美支部の会員の設計された建物

見学など大変有意義な大会参加となりました。奄美支部の皆様のご厚意により、現地の施工現場見学等もさせて頂き、北海道とは違った南国ならではの施工法など拝見することが出来ました。夕食は各自自由だったので奄美の居酒屋へ入店すると、宮崎支部・大分支部の方々もいらして一緒に同席し交流を深める機会となり全日程を通してとても良い思い出となりました。

少人数の斜里支部ですが、又全国大会へ参加できるよう若い会員を増やし頑張りたいと思います。



奄美の教会建設現場視察

道士会の動き

本部の主な会議報告（7月）

- ◆第4回BIM推進特別委員会（Web）
（開催日）2日（水）
1）令和7年事業活動計画
- ◆第2回情報委員会（Web）
（開催日）19日（土）
1）会誌「北海道建築士」
2）全道大会（中標津大会）

本部の主な行事予定（8月）

- 2日（土） 第2回事業委員会（Web）
- 5日（火） 第3回女性委員会小委員会（Web）
- 15日（金） 第3回総務企画委員会
- 22日（金） 第3回役員会
- 29日（金） 第3回理事会

講習会・セミナーのご案内（8月）

監理技術者講習

20日（水） 札幌市 21日（木） 函館市

CPD認定プログラム（7月認定）

- ◆令和7年度第1回ヘリテージ・マネジメント
フォローアップ講習会 in 北海道開拓の村
《日程及び会場》8月2日（土） 13：30～16：00
北海道開拓の村（札幌市）
- 《単位数》 2単位
- 《プログラム問合せ先》
北海道文化遺産活用活性化実行委員会
TEL 011-271-4220

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 8月パスワード：Mon058

編集後記

何を書こうと悩み、会誌を遡ってみたところ、昨年私は全道大会に行きましょと書いておりました。

ちょうど7月号には中標津大会の案内が…。きっと今頃中標津支部の皆様は、準備等大変かと思えます。

士会の皆様たくさん参加して、中標津支部さんを北海道建築士会を盛り上げていきましょう!!

みんなで中標津へ行こう！を合言葉に編集後記とさせて頂きます。
情報委員会 津山 浩（日高支部）

お知らせ

「木造軸組工法中大規模建築物の構造設計演習」開催

- 開催日時：10月9日（木）・10月10日（金）
（2日間）10：00～17：00
- 会場：北海道第二水産ビル3F
（札幌市中央区北3条西7丁目）
- 受講料：無料
※別途「計算演習資料」代 1,340円（税込）
- 詳細は、9月号フライヤーにてご案内します。



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ① CPD情報システムにログインをします。
- ② 自己申請の建築士会CPDメニューよりweb講習会/認定教材研修申請の形態 [自己学習型[02]専門書誌等] を押します。
- ③ CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④ web講習会自習型教材メニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤ 設問への解答を選択します。
- ⑥ 入力後、「次へ」を押します。
- ⑦ 確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

CPD 自習型認定研修の設問

P4-P5 技術ノート
（木造建築物の壁耐力等に関する
評価提案ツールの開発）

北海道建築士 No.336
2025/8/1 単位：1

設問 耐力壁の詳細計算法を用いた場合に許容せん断耐力を高める方法として、不適切なものはどれか。

- a. 面材に釘を打つ間隔を狭くする
- b. 釘の長さを長いものに変更する
- c. 釘種をCN釘からN釘に変更する（長さは同一とする）

情報委員会委員長／前田 繁
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜
委員／角張 隆昌・津山 浩
奈良岡 修

北海道建築士 No.336号

印刷 令和7年7月／発行 令和7年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL https://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番